明治三十二年二月廿七日印刷
明治三十二年二月廿七日發行

婦人衛生雜誌

第百十一號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第百十一號
目次

講演
●帶と食との關係　醫學士　山根正次君

寄書
●初生兒傳染性眼病　產婆學校內　宇野奈加子

衛生叢談
●血族結婚の害
●戶籍口戶總數
●年齡による脈搏の平均
●滅菌したる牛乳
●實布垤里病
●コーヒーにつきて
●烟草
●人身の構造及官能
●呼吸器及消化器
●勞佚の適度
●起臥の時を定める事
●賓客に對する菓子
●身体の淸潔
●心意を爽快にする事
●大日本婦人衛生會記事
●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第百十號
目次

講演
●獨乙婦人の話　陸軍軍醫醫學博士　芳賀榮次郎君
●芳賀軍醫正の西比利亞遠征談

衛生叢談
●撿温法
●脉搏
●大日本婦人衛生會記事
●廣告數件

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉事務所移轉及事務員後任

本會事務員太田幾子には多年本會の爲め盡力せられたるが宿痾遂に癒えず長逝せられたるにより其後任には役員多數の推薦により

四谷區仲町三丁目二十三番地　小林榮子

右仝人に委囑し仝時に**本會事務所**も**同所**に**移轉**せり今後の郵書は仝所へ**爲替**は**四谷郵便局**宛振込まるべし

右廣告候也

明治三十二年二月

大日本私立婦人衛生會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百十一號
（明治三十二年二月二十日發行）

講演

●帶と食物との關係（明治卅二年一月例會於小石川區役所）

醫學士 山根正次君演說

私は只今御紹介になッた山根正次で有ります、本區内にて婦人衛生會に、私の出て御話をするのは今日が初めてゞ有ます、從ッて皆樣に御目に懸るのも、多くは御初で有らうと考へる、私は初めて伺ッた御顔も有り、或は數回御目に懸ッた御方も有る樣に思ひます。先づ明治三十二年も明けましておめでたうございますと云ふことを皆樣に申上げたい、皆樣も御健康に御年を迎へられたからこそ、今日此會場に御出席が出來たので有りまする、私も六十にはまだ少し間があるが、……追々齢を重ねましても、まだ達者で本會に出づることの出來るのは、自分ながら誠にめでたいことゝ思ッて居ります。

抑々人が生活せる間は、成るべく健康でなければなりませぬ、私は其丈夫即ち活きて居る間は健康でなければならぬといふことを切に祈らるゝ御方々が、今日此會に御來會になッたので有らうと思ひます。即ち健康は皆人の欲する處で有ります、而して其事に就て御話をするのが婦人衛生會の目的、此婦人衛生會と云ふ會が夙くから出來て居るのであります。本會は身体の健康と云ふことに就て研究をして居らるゝ會である、私は婦人は國の母で有ると云ふことを申したい、何故かなれば一

方に婦人が有ッて始めて人間同族が出來る………茲に在らせらるゝ令孃方も皆後には必ず人の母とならねばならむ御方である、其母親となるべき婦人方が先づ第一に身体が健康でなければ、從ッて是より生る他の者が皆弱くなる、母親の躰が丈夫でなければ總て國民が虛弱になります、ソレで有りますから私は茲に未來の母たるべき貴女方に向ッて、其御健康を祈る爲め、今日は帶と食物と云ふことに就て一塲の演說を致さうと思ひます。併しソレに就ては實は何か調べて置いて申上ぐる考でありましたが、私の身はなか〳〵多忙で調べて居る暇が有りませぬ、故に其申上ぐることは、誠に出鱈目でありますが併しその中には、幾分か味が有らうと思ひますからどうか御聞きを願ひます帶と食物の關係を說くに就ては、その食物の中にはいろ〳〵の物が出やうと思ふ………或は薩摩芋も出やうし、牛肉も出やうし、牛乳も出やう、帶の事を云ふに就ても、またいろ〳〵の飾が付くかも知れませぬ、此事に就ては三宅博士が參られて面白い談話をされるで有らうと思ひます。一体此衣服と云ふものは、我々が何の爲めに身躰に附けて居るのかと云ふに、各自の躰温を保持せむが爲めで身体を蔽ふ處の物で有ります。又一方には飾りとして、美しきもの麗はしきものを附け、或は其體の格好を整へむがため、美しく見せしめむが爲めに肩上が如何とか、腰上が如何とか、袖が何うとか、襟が何うとか云ふやうな事も注意しますが、併しソレは衣服の本趣意ではなく、衣服あつて後始めて言はるべきことです、今日でも野蠻國に往くと衣服を着けない風の處が有りますが、開

明國の人は一般に皆肌膚を蔽す……躰温を能く保たしむる爲めに必ず衣服を着て居る。で歐羅巴には概して腰に吊る服が多い、ソレは何う云ふ工合に釣るかと云ふに「コウセット」と云ふものが有つて、ソレに幾個も鍵が附いて居る、其鍵に衣服を釣り下げるやうになつて居る、所謂袴の類が多い。ソレに反して日本の衣服は、肩から吊る、恐く肩からつるやうになつて居る、……同じ衣服にもさふ云ふやうな相違が有る。又歐羅巴の服は「コウセット」で締り、日本の衣服は帯で締める。歐羅巴の「コウセット」も用ゐ方で非常に害になる、ソレから又日本の帯と云ふものも用ゐ方に因つて大へんに害が有る、其害を今日は御話しやうと思ひます。

帯と云ふものは、衣服を締める爲めに結ぶ處の物で有る、單に帯と云ひますが、其帯を締めるには帯に附帯する種々の物が有ります、其種々の物と云ふのは、則ち紐の類を申します。日本の服には非常に澤山の紐を用ゐる、殊に東京地方は最も紐を用ゐることが多い、まづ大約その位ゐの紐を結び附けるかと云ふに、その數は非常に多い。全体澤山の紐を締めて、からだを緊迫するのは大へんにからだのために惡るいことで有ります、殊に御婦人に於て甚だ惡しきことを私は感じて居る。なは其上に甚だしき例を言へば、京都邊では、婦人が妙齡になつて、乳が膨大ると胸の形が惡るくなると云つて、女の子はまだ少さい中から胸部の太らぬやうに、布を以て堅く卷き付けます。歐羅巴にも之と同じやうな弊が有つて、婦人の胴が太くては見惡ひと云ふので「コウセット」を以てキウキ

帶と食物との關係

ウ締める、是等は皆其當時に害は見ゑませんでも醫師の眼から見ると、著しき病氣の原因となります、この堅く締めらるゝが爲めに胸隔胃部の形狀が違つて了つて、胸が張り出して、胴が凹んで細くなる、ソレ故紐を堅く締める人は私の樣な大きな胴でない、皆樣の締め方に因つて奇形を爲します、殊にまだ幼き子の發育の熾なる時に於て最然りとする、其締め方が餘り强いと、只胸の變化を來すのみならず、內部に在る處の臟器の變化を起して來ます、歐羅巴の婦人は「コウセット」を强く締める爲めに、一体肝臟は橫に長く、縱に短きものであるべきに、ソレが反對になつて、橫に短く縱に長く……肝臟は半にして將に斷れんとして下の方に下がつて居る。又遊走腎と云ふ病を起す、是れは腹部を强く締めらるゝ爲めに、腎臟をつッてある血管が緩んで、種々の害を爲して、遂に婦人生殖器にまで障碍を及ぼし、醫師には婦人病と取違へられて、とんでもない處を診察されるやうなことが往々有る。然るに目今「コウセット」のみに限らず、紐の爲めに此病を起す、日本の紐を以て堅く結び締めらるゝ婦人に、此遊走腎の病氣が殖ゑた、さうして見れは紐を澤山結ぶのはからだの爲めに大へんに惡るいと考へる、ソレのみならず紐を澤山結ぶ爲めに、帶を强く締める爲めに、食物を餘計取るとが出來ないと云ふ關係が有る。皆樣が御存知の通り、人は成るべく澤山に食物を取らなければならむ、然るに紐を締めた爲めに充分食ふことが出來ないと云ふことであつて見れば此紐と云ふものは衞生上に大なる害の有るものと言はなければなりませぬ。其紐がどの位ゐからだ

に卷きつくかと云ふに、先づ下帶の紐、下襦袢の紐、裾除の紐……なは此上に夏になると汗おさへに絲瓜を用ゐる、ソレにも紐が附いて居る、ソレから襦袢が後に垂れるのを吊る爲めに襦袢にも紐が附いて居る、是等の多くの紐が皆胃袋の邊に結び附いて居る、ソレから衣服にも時には紐が附いて居る、其上に裾引にも出來るやうになつて居る長い衣服をかゝえる爲めに、腰の邊に紐を結ぶ、さうするとタヽクレが出來る、其タヽクレを壓へ附ける爲めに、又グル／＼と紐を卷き附ける、而して着物は何うかと云ふに、裾の厚い白襟御紋附の三枚襲を着る、さうするとなか／＼呼吸が充分に出來ない、梯子段でも上がると誠に息が烈しくなります。斯う云ふ樣に大へんに紐を結び附けてあるのみならず、その上に持ッて往ッて軟かい帶ならまだ宜いが、板のやうな帶を結び附ける、さア此帶を結ぶにはなか／＼一人では結び切れない家の下婢も來よ、馬丁も來いと云ふやうな大騷ぎで、三人位ゐの力でなければ締らない。其板のやうな帶の上に、帶上げ、帶留等を結び附けてあります。さう云ふ案梅に結び附けて有りますから呼吸は妨げられるのみならず、胸の邊が苦い、さう云ふやうな扮裝で、御案内が有ッて御客に往ても御辭儀をするにも加減をして始終擧動を思ふ儘にしたら何う云ふ過失が出來るかと云ふやうな考へをして居られる、ソレ故に呼吸さへ靜めてなすッて居る、殊に島田なぞゝ云ふ髷は中に小枕のやうなものが這入ッて居ッて、頭を下げると、ソレが引張れて痛い……腹は帶、頭は髮の毛で引張るからなか／＼御辭儀も充分には出來ませぬ、ソコに

持ッて往ッて御膳が出た、「きんとん」が附いてゐる、ソレを食ひたうても食ふことはなか／＼出來ない、どうか「召上がれ」と御主人に進めらるゝので「きんとん」の上を少しばかり嘗めるのがやう／＼のことである。全体日本の婦人は食物が少なき爲め、營養が惡るい、健康なる母となるにはモッと食物を食べなければなりませぬ、偶々澤山食べるときは、香の物に茶漬と云ふやうなことでは不可、殊に宴會の席などに於て、御婦人方は餘計に物を食べませぬ、爾う云ふ習慣は止めて澤山食物を食べるやうに育てませぬと健康なる母となれない、穀食をするものは殊に澤山に食はなければ營養になりませぬ、その食を澤山に食べられぬは何の原因かと云ふに、先づ第一に紐を澤山に締めるから食へんと云ふのである、ソレ故皆樣は食を充分に食べやうとするには、先づ帯を緩くしてからでなければならない、緩くするのみならず軟かい帯を結び附けることが必要でございます。何うか皆樣は明治三十二年よりは澤山食ふやうに御心懸けなさらなければならぬ、御存知の通り、條約改正實行の期も目前に迫ッて居りまして、内地雜居の曉には多くの外國人が入り來ッて、我々は彼等と席を同じうして食事をする折なども澤山有らうと思ふ、其時に西洋の婦人などはなか／＼澤山遣る、日本の婦人がソレに劣けてはならない、爾うならなければ營養が足らぬから未來の國民を御生みになッても、健康なる國民は出來ない、私は日本の帯は極く良い――と云ふものは軟かい帯は腹部を保ッて誠に結構である、所謂おみお腹が溫かい……が併し堅い帯では害が有ります、又西洋

の「コウセット」で締めるのは大へんに惡るい、殊に此皮膚や筋肉が皆弛緩して「コウセット」を除つたときでも腹を張ることが出來ない、故に西洋の婦人には難産が多い、日本には幸にして難産は少ないので、軟かい帶を締めるのは西洋の「コウセット」に遙かに勝つて居ります、帶を緩やかにして食物を澤山食べるやうになさらなければなりませぬ。

是より食物に就て御話を致したいことが澤山有る板を見たやうな帶を結ぶ爲めに食物が餘計食へない何うか明治三十二年よりは澤山召上がるやうに致したい、宴會の席などに出てゝも日本の宴會は疊の上に坐はるのでいくら奇麗な御座敷でも、裾で塵埃を拂つて食物の上に掛りますから、早く塵埃のせぬ中に片端から平げるやうにしなければならない、齢を取つた奥さん達が先に立つて「召上れ」と言はれるのを待つて始めて少し宛食ふのは惡るい。

附け加へ、私は食物に就て御話をしたいのは、日本婦人は比較的牛乳の飲み方が少ない、是れはどうか今の中良い習慣を附けなければならない、何故なれば「突然病氣になッたときに固形物を食べては否可、是非牛乳を飲まなければ不可」と云ふやうな場合に、平日飲み癖が附いて居らないと大へんに困ることが有りますから、牛乳などは成るべく澤山飲むやうにしなければなりませぬ、私は警視廳に於て牛肉牛乳などの取締をして居るもの故申しますが、日本人の牛乳の飲用高は誠に少ない歐羅巴人、殊に佛蘭西人は一日牛乳がどの位ゐ要るかと云ふに、一日一人に就て六合である、然る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に日本は如何、殊に東京は何うかと云ふに、牛乳の搾取高を調べて見ますると實に少ないのである今爰に調べた表が有りますから、ソレに就て御話します。

牛乳需用高調表（東京府下に對する調査）

牛乳		
年次	搾取高	百人に付一日
廿六年	一三、八一七、一一九石	二、四四合
廿七年	一六、六〇九、〇八六	二、九一
廿八年	一九、五六三、三八〇	三、三六
廿九年	二三、二五三、二一〇	三、九二
三十年	二六、一六九、三七二	四、三五
三十一年	二五、五五六、二七八	四、二五

東京府下三十年末人口
男　八四六、八二六
女　八〇〇、二九二
計　一、六四七、一二〇

斯樣に明治二十六年より昨三十一年迄乳を搾ッた高は段々に多くなッては居りますが、百人に就て一日四合八勺五才で、佛蘭西人一般の一日一人に就き平均六合に比して少なきこと斯くの如くで有ります、モッと乳の飲用量が進まなければならむ、殊に御婦人方が乳を嫌ふ性を失ッて好む性を養はれむことを希望致します、營養物に富んで居るものは成るべく多く食べるやうにしなければならむ、世が開明に赴くと同時に、人の腦を勞することも烈しくなッて來ますから之を補はむとすることには何うしても營養を餘計に取らなければならないことになッて來る私の思ふに、東京邊では一人が一日一合の牛乳を飲むやうに進んだら、非常に大きなものである、ソレですから佛蘭西巴里邊の人民に劣ること五合である、彼地の人は一般に日々六合の乳を飲む、日本の人は百人に就て四合

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふやうなことでは何うも歎はしいことであります。又成るべく肉食を多くしなければならむ、併ながら日本は西洋の如く肉食は纔にある望みが無い、如何となれば御承知の通り、日本は四邊海を以て環らし、魚類が澤山に捕獲される處から、古來魚肉を食ふ習慣が付いて居ります、ソレ故獸肉を食ふことに就ては、今後幾分か進みませうが迚も西洋の如くには進みますまいと思ひます、これも明治二十六年より昨三十一年迄の屠牛斤數幷に百人に付いて一日の平均を調べました表を御目に懸けます。

獸肉需用高調表（東京府下に對する調査）

年次	獸肉 總斤數	獸肉 百人に付一日
廿六年	五、六八一、七七一	一、〇一
廿七年	八、九二四、八六一	一、五七
廿八年	九、三八九、五三三	一、六二
廿九年	七、四四七、〇九九	一、二六
三十年	七、八四二、六六一	一、三一
三十一年	八、八六八、三七四	一、四八

東京府下
三十年末人口
男　八四六、八二六
女　八〇〇、二九二
計　一、六四七、一二〇

此表で見ましては、明治廿七八年は屠獸總斤數が割合に多い、是れは日清戰爭の際で、澤山の鑵詰肉を製造したからで有ります、即ち軍隊の需用が增して居るので有ります。ソレで日本人には此美味なる、且つ滋養ある肉を嫌う風習が有るが、是れからは此牛豚肉をも餘計食ふやうにしなければならない。ソップは臭い、四肢は食べないと云ふやうな事を言ふものがある、或は四肢を食べると神罰が當ると云ふやうなことを信ずるものもある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、決して神樣はこんな事で罰をお當てなさらない、牛を食はうが、豚を食はうが丈夫になッて信心をするものがあれば、神樣は決してお嫌ひにならない、神樣は平日信心をしないで病氣になッた時ばかり信心をするのを、神樣は一番不平に思召して被在る「平生の養生が惡るいから病氣になるので、ソンなものにはいくら頼んでも癒して遣ることは出來ぬ」と被仰る、ソレですから平生能く丈夫になるやうに肉食などをしなければならない、然るに帶が堅く紐が澤山締めてあると、食物が餘計に食はれぬから帶を緩くして牛乳を飲み、肉類も食べ、御飯も澤山召上がッて、健康なからだにならなければなりませぬ、私は今日帶と食物との關係を御話せんが爲めに牛乳肉の表を調べて參りましたソレで以上反復述べましたので、皆樣にも帶を強く締めるのは惡るいと云ふことは御解りになりましたらうと思ひます。

終に臨んで皆樣にお家への御土産に、着物の事に就て少しく申上げます、私は明治二十六七年の頃本婦人衛生會に襦袢の襟を白襟にしてお貰ひ申したいと云ふことを御話したが、目今皆樣の間に白襟が流行て來ました、歐羅巴人は男でも女でも白色の物を好み、肌には必ず白いものを附けて居る、是れは極く好き風である、白襟の風は至極宜い昔から御諸侯方の着物は、下は白い物を着られる、必ず白襟紋附で、上は黑でも鼠でも思ひ〳〵の色の衣を襲ねられる、何故白襟が宜いかと云ふに白色は則ち清潔を現はして居る、故に成るべく白いものを用ゐる習慣を付けおければならない、學校の教師方も成るべく白い清潔のものを用ゐる

事を教へられむことを望む。昨日も三島君が大日本私立衛生會の講習所に於て話されましたが、昔は學問の修業でもするやうな者は髮は蓬々と亂れ、袴は破れ、服は垢付いて居ッても宜いことになッて居ッた、今日でも九州奥州にはなほ其風が遺ッて居ると云ふやうな事を言はれたが、教員自ら斯う云ふ風ではならない、婦人衛生會に御出になる方々は、衛生上の事を守ッて、後來健康なるものにならうと云ふことを望まるゝ方々と存じますから、白い物を用ゐる風習は附けて貰ひたい、殊に襟は白い襟を附けて清潔にして戴きたい。やがて改正條約が實行されて、外國人が多勢參るやうになりましたらなほさら我々日本人は萬事清潔にして外國人に笑はれないやうにしなければなりませぬ。外國人は夜具でも襯衣でも皆白いものを用ゐます、日本では夜具の襟などに天鵞絨を掛けますが、天鵞絨は病毒を吸い込むもので、且つ汚れても解らないから、衛生上甚だ危險なもので有ります。白いものは汚れゝば直ぐに眼に付きますから洗ひますが、天鵞絨などは解りませぬからとかく其儘にし易い、恐らく天鵞絨の襟を一週間毎に御掛け換えになる方は少ないと思ふ。西洋では一週間か二週間毎に汚れた物を洗ふ風習が有るどんな貧乏人でも、一週の中に日を定めて敷布襦袢等を聚めて煮るやら大騷をして洗ッて居ります。故に白いものは誠に清淨で有ります、病毒の恐れなきは白いもので有ります。茲には學校の教員方も澤山居られませうが能く、此清潔と云ふことに御注意あッて、殊に女の御子さんには少さい時より白いものを附けさせ、清潔なものを着ける風

習を附けなければなりませぬ。日本人は元來潔癖の人種である、其潔癖は能く衛生に適當して居るから、白く清潔なるものを用ゐなければならぬ、日本では凶事の時より外白きものを用ゐない風が古からある、然るに歐米は全く之に反して死んだときには黒い色を用ゐ、婚禮の時に白い色を用ゐる、ソレで時れも明治三十二年から特に皆様に願ッて置きます。

ソレから又日本の兒女は往々鼻涕を垂れて居るが學校の教師の方々も、能く此二本棒に注意して與れない、是れは何うか以後は注意して欲しいのである、私の見ますに、相應に立派な處の奥様でも兒女の鼻涕は拭いて遣らぬやうである、若し又拭くときは不潔なる塵紙などを以て拭く習慣が有るが、是れは早速廢して、やはり「ハンカチーフ」を以て拭く癖を附けるのが宜い。學校は寒い時分でも充分に温を取る處の方法を設けてない事故兒女は皆「いろは」を書くときに鼻涕を垂らして居る、さう云ふ時に教員方は能く注意して「涕鼻を垂らすものは行狀點を減く」とかなんとか云うやふにしたら、大に効能が有らうと思ふ。又鼻涕を拭くのには汚れた紙より潔き「ハンカチーフ」を用ゐる方が宜い、「ハンカチーフ」なれば汚るれば直くに熱湯を注いで洗へば清潔になります紙で拭くならまだ宜いが、甚だしきは母親が自分の襦袢の袖で拭き、或は小兒が泣いて涙と鼻と涕出て居るのを自分の掌で撗撫をした儘平然として居るものなどを往々見受けますが、實に不潔極ッたことで、斯う云ふ風習は外國人などに見られては誠に日本の爲めに差づべきことゝ思ふ、否日本人でも

こんなことは餘りお好きな御方はあるまいと思ふ。今一の學校に往ッて觀ると、三十人の生徒の中恐らく二十人位は鼻涕が出て居ると思ふ、勿論學校の如き室内の寒冷なる處に在ッては、鼻風に冒かされて餘計鼻涕を垂らすやうになるので有りませう、甚だ不潔の事のみ申すやうで有りますが、是等は注意の點で有ります、どうか私が今日申しました惡口は能く御記臆を願ひます。

未だ三宅博士が見えられませぬからモウ一二の附加へを致します。新年に成りましてから何事が出來たかと云ふに、一月四日に例の如く出初式を行はれた、其出初式は則ち東京の消防夫が皆出て梯子乘をする、その式を見やうとして四方より人が大勢出ました、そのうちに大へん面白い藝をすると云ふので、兒童やなどが大へん押寄せて來たその混雜に壓されて負傷をした子供が有る、デ是れは危險衛生の方の側から言ふべきことですが、斯う云ふ人の大勢出る處に子供を出すと云ふのは甚だ惡るい、實に警察に餘計な厄介を掛ける、ソレのみならず親はそれが爲めに知らず識らず不注意の責を免れない。ソレから又過ぐる八日に陸軍の觀兵式のあッた際には、如何でありましたか其立派な方の令孃が馬に蹴られて、額骨が砕け附添ふたる褓母も肋骨を三本折ッて了ッた、いづれも今赤十字病院で治療中であるが、かゝる不時の災難が有りますから、人の親たるものは能く注意して、斯樣な危險は避けるやうにしなければなりませぬ。ソレから又往來で小兒を遊ばせると云ふことは避けなければならぬ事と思ひます、元來小兒は戸外の廣濶とした處に出で、羽子を突き紙鳶

を上げて遊ぶのは運動上至極宜いことでありますが、併し此遊びを往來ですると云ふのは非常に惡るい、先づ此處（小石川）なれば傳通院の內で遊ぶとか、或は靖國神社の公園のやうな處で遊ぶとかなんでも最寄の公園のやうな處で遊ばせるのが宜い、勿論日本には公園と云ふものが少ない。歐羅巴では各自の家に庭が無い代りに、各街の外れには必ず公園が有る、日本には其公園の乏しきため往來で紙鳶を上げて電信の針金に引掛け交通機關の便を妨ぐるのみならず、往來の車に觸れて負傷したものが澤山有ります、是等は危險衛生の方から何分にも御注意を願ひたいので有ります、否是れは斷然警察の方からも嚴重に取締るやうになッて、近日其條令を發せるゝやうにならうと思ひます。

實は私は今日は僅か十分間ばかり御饒舌を致して御免を蒙るつもりの處、段々長くなッて御退屈で有りませうが、序でにモウ一ッの附加へは、本會は前申しました如く、弘く婦人に衛生思想を普及しなければならない、則ち婦人は家庭の衛生に注意しなければならぬ義務あるもの故、其家事衛生の事を研究するといふ目的から起ッた會にして、宮様の御息所を總裁と仰ぎ、歷々の婦人方が會長となり、幹事となッて盡力して居らるゝ處の誠に有益なる會で有ります、皆様が個々區內で開いた時にのみ御來會になりますが、此會は每月例會を必ず開きますから、どうか皆様は常に此會に御來になる様に致したい、ソレには會員とならると常に此會に御來になることが出來る、ソレのみならず雜誌までも送て上げる、其雜誌には私の如き

演説ばかりでない、堂々たる學士博士の有益なる演説を掲載されてあります。皆樣は御家に御歸りになりましたら御父樣御母樣に御願なすッて、本會に御入會をなさる樣に致したい、見渡しまするに皆樣方は雜誌の讀める方々である、其載ッて居る事柄は私は未來の母の心得、或は既に母たるべきもの丶心得にあることがいろ／＼出て居るので「婦人衛生會は實に善い會である、毎月雜誌を配り正月には福引をなす……簪もあれば毛糸もあり「タワシ」も有りまする誠に結構なものか澤山並んで居る、實に面白い有益な會故、毎年一月の會ばかりでなく、常の會にも來て戴きたい、會からは有益な雜誌も發行する事故御父樣御母樣が這入ッて下されば、私も福引の時にも附いて参られまするからどうか入會して下さい」と云ふことを御兩親に御願ひにあるやうに致したいさうなると皆樣は牛乳も澤山御飲みになり肉も澤山召上がり帯もゆるく締められる樣になッて皆樣に取ッても大きな利益、牛肉屋乳屋も大喜び、婦人衛生會も隆になッて、從ッて日本多くの婦人方が、皆柳腰てなく、大道臼の樣になッて大道を歩行かる丶樣にあらうと思ふ。前にも申せし如く、此國を保ッにはどうしても母となるべき婦人が丈夫でなければ立派な國民が出來ない故、私は特に此事を願ッて置きます……是れから追々福引も始まるさうで有りますから、皆樣は成べく好いものを引いて御歸りなさい、私は本日御來會の御方の御健康を特に希望致します。

寄書

●初生兒の傳染性眼病

産婆學校内　宇野奈加子

初生兒の眼疾患は甚だ尠からずして産時に於て大に注意せざる可からざるなり初生兒に於ける眼病にして分娩後に腟外に於て感染すること屢々あり何となれば初生兒の眼瞼にして分娩前已に開放せるもの甚だ稀にして分娩後に襲はるゝを多しとす然れども已に腟内若くは子宮内に於て感染せることは勿論實驗あるべきことにして殊に胎兒の顏位をもッて分娩する時の如きは最も容易に説明することを得るなり故に初生兒の眼病を豫防せん爲めには先づ産婦の腟腔を洗滌消毒し分娩すれば直に生兒の眼瞼に清潔法を施行すること誠に緊要なりとす而して分娩時若くは其後に於て生兒の眼瞼を洗滌するには注意して純良なる清水又は一たび沸湯したる水を用ひて決して浴槽中の水を以ッて行ふべからず我邦の習慣として浴水にて洗ふは甚だ宜しからず改むべきことなりとす又生兒も温浴か緊要なり小兒の温浴に左の如く數種の區別あり

寒浴	水温攝氏十九度	即ち華氏六十六度二分
冷浴	水温攝氏廿度乃至廿八度	即華氏六八度乃至八二度四分
微温浴	水温攝氏三十三度	即ち華氏九十一度
温浴	水温攝氏卅四度乃至四十度	即華氏九十三度乃至百〇四度
熱浴	水温攝氏四十一度	即ち華氏百〇六度

衛生叢談

●血族結婚の害

耳鼻咽喉科專門ドクトル金杉英五郎氏には血族結

婚と聾啞の關係を論せられたるが今同會の統計に據れば

第一　盲啞學校統計表聾啞總計二百二十六人中兩親血族血婚間に生れし者五十人（百分の廿二強）あり其種類を擧ぐれば

叔父と姪　二組　再從兄弟姉妹　七組
從兄弟姉妹　卅三組　遠き血縁の者　二組
從兄弟の娘を妻とする者　六組

第二　東京耳鼻咽喉科醫院調査聾啞總計百八十四人の内兩親血族結婚間に生れし者三十五人（百分の十九半）あり其血族結婚の種類は

叔父と姪　三組　從兄弟姉妹　廿四組
再從兄弟姉妹　四組　遠き血縁の者　四組

右の如く其聾啞者は從兄弟姉妹結婚の間に生るゝ者を最も多しとす依て血族結婚は成るべく絶對的に禁止したし然れとも人間繁殖上其他の關係に不都合なれば六等親より之を許すも大過なかるべし云々と結論せられたり

●戸籍口戸總數

內務省に於て調査せる去三十年十二月三十一日現在道府縣（臺灣を除く）戸口數左の如し

戸數　八百五万八千四百七十四戸
人口　四千三百二十二万八千八百六十三人
内
男　二千百八十二万三千六百五十一人
女　二千百四十万五千二百十二人

族籍を分つときは

華族　四千五百二十三人
士族　二百八万九千百三十四人
平民　四千百十三万五千二百六人
棄兒（養子女となるもの）三千三百七十八人
在監無籍人　千八十七人

之を前年同日現在の調査に比するに戸數に於て五万三千六百二十五戸人口に於て五十二万五百九十七人内男二十六万二千六百二十八人女二十五万七千九百七十一人を增加せり

●年齡による脈搏の平均

脈搏の尤も多きは胎兒初生兒にして漸次年を重ぬるに從ひて脈搏を減ずれども結婚の時期に至れば身体の變調を來すが故に再び增加するに至るものにて此時期を過れば亦漸次減少し六十歲以上に至りて又更に增加して一分時間七十五搏以上に達するものにして通例女子は男子よりも其數多き者なり今左の二表によりて之を詳かにすべし

脈搏平均表（但一分時間）

年齡	脈數	年齡	脈數
胎兒	一二〇、ー一五〇、	初生兒	一二〇、
生后一ヶ月	一二〇、	一歲	一二〇、ー一三〇、
二歲	九〇、ー一一〇、	三歲	八〇、ー一〇〇、
七歲	七〇、ー九〇、	十二歲	七〇、
結婚期	八〇、ー八二、	廿五年乃至三十年	七〇、ー七五、

男女脈搏數の平均（但一分時間）

年齡	男	女	女の男より多き數
二年以下	一一〇、〇	一一四、〇	四、〇
二年ヨリ五年	一〇一、〇	一〇三、〇	二、〇
五年ヨリ八年	八五、〇	九三、〇	八、〇
八年ヨリ十三年	九二、〇	九七、〇	五、〇
十四年ヨリ廿一年	七六、〇	八二、〇	六、〇
廿一年ヨリ八十四年	六九、三	七八、六	九、三

●滅菌したる牛乳

牛乳を滅菌煮沸すれば其氣味幷ひに色澤に異樣の感覺を呈するは世人のよく知る所なりドクトルアー、ウロプレウスキー氏は牛乳が滅菌を受けたる後其養分に變化を來すや否やを試驗し其結果を次の如く報告せり

第一　乳糖（乳に甘味ある成分）の一部分は滅菌後「カラメル」に變化し之と同時に少量の乳酸を生ず

第二　蛋白質（卵のしろみの如きもの）は凝結す

第三 酪素（前に同じ）の一部分は或は直ちに沈澱せざることあり

然れども滅菌を受けたる牛乳は其滋養の點に於ては生牛乳に比して敢て優るも決して劣ることなし云々されば煮沸したる牛乳は最も安全にして而も滋養尤も多きものなり

●實布垤里病

此病氣は俗に馬脾風と稱へ一才より八才迄の小兒を死すこと多き危急なる病なり一才の小兒には他の病に比すれば割合には少なも二才に於ては他の種々の病に比するに遙に多きものなり二才以上となるとき此病に罹り易き性質は段々減ずるものとす然れども五才迄は小兒死亡の三分の一は此病氣の爲に死するものなりと云ふ

此病毒は一種の結核の「バチルス」に類似したる極めて細微なる虫にして病人の口内、鼻孔、氣管より出でたる粘液に附着しをるを以て此粘液又は病兒の手に觸れたる物より傳染す故に此諸物は皆善く消毒を行はざるべからず若消毒不充分にて粘液乾きて空中に飛び散るものを吸入するときは此病に罹るものなり又此病毒は他の病毒と異なり數日間又は十數日間も其毒性を失はざるものなるが故に十數日以前に實布垤里患者の起臥したる室内に入りたる爲此病に罹ることあり之を以て消毒は最も叮嚀に行ふへし實布垤里に罹れる小兒は靜に褥中に臥せしめ毎日体温を計り食滋は牛乳、粥汁の如きものを與へ頸の周圍は「プラチル」に湯を浸したるものを絞き其上を油紙にて包み倘其上を綿にて覆ふべし、又口中、鼻孔等を清潔にする爲に含嗽藥を用ひ又鼻孔を微温湯にて洗ふべし、

豫防法は次の如し、
本病は前に記せるが如く小兒を侵し其病毒は鼻孔及び口内にありて傳染の性劇しくして其上長き間毒の性を保つものなるが故に患者の鼻、口に觸れたる者は勿論衣服玩弄品にても一度患者の手にしたる物に觸れぬ樣心を用ゆべし尤も全安あるは一家内に此患者あるときは他の小兒を隔離するにあり又此病は大人に傳染するとなきも患者に近りたる大人より他の小兒に傳染するの恐あるが故に看病人は他の小兒に接せざる樣注意し時々石炭酸水昇汞水にて手を洗ふべし、
患者の痰唾、又は鼻汁を拭ひたる紙片、布片は一定の容器に入れ又患者の含嗽したる藥液等も取纒め消毒すべし大小便及び便器も又然り、
患者恢復に趣くも以上述べたる消毒法は怠るべからず又全快の後も二三週間は他の小兒に接せしめず小學校に登校するを禁ずべし之れ患者の本人には左したる障害なきとするも他の小兒に病毒を傳るの恐あればなり、
又質布垤里を發したるときは病家近傍に住する父兄は共同して其傳染を防禦し各自の小兒をして病家に近つかしめざる樣注意するを要す
市町村落に頻々此患者を生ずるときは醫士をして小學校又は幼稚園の小兒を診察せしめ類似の疾候あるもの及び感冒等に罹れる小兒は一時休學せしめ一度此病に罹れる小兒は全治後三週間を過ぎざれば學校に入らしめず、又此病症流行甚だしきときは課業の時間を短かくし朝夕の寒冷なる空氣に觸れしめざる樣注意すべし又唱歌の如き高聲を發する課業は一時中止すべし、痰唾は一定の器中に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

昇汞水或は石炭酸水を盛り此内にあさしむべし

●「コーヒー」につきて

「コーヒー」は當時何れの國を問はず一般に好嗜物として稱用せらるゝものにして西洋にては既に三百年以前より用ゐらる「コーヒー」は熱帶の暑き處の國に生ずる一種の灌木の種子にして之を焙り然る後粉末になして用ゆるものなり「アフリカ州」アビシニヤ國產を最上となす、

此褐色をなす粉末に沸騰したる湯を注ぎ砂糖を加へて飮用するときは其內に含まるゝ「コフフエイン」と云ふ性分の爲に神經興奮し疲勞を忘れ職業を營むに自ら樂みを生す故に職業多忙にて睡眠の充分ならざるときに用ゆればよく困難に耐ふるものなり又毎朝食前に一碗の「コウヒー」を飮むときは睡眠中沈靜せる体內諸々の器械の働き一時に發動して精神爽快となり氣力頓に加り手足の動作も輕くなり能く一日の職業に堪へ得るものあり、然れとも平素神經過敏にて感じ易く頭痛眠りの惡しき習慣ある人には宜しからず、

「コーヒー」は長く藏ふるときは其香氣、風味を失ふのみならず又光澤をも失ふものなり故に賣物には時としては色々の色素にて色をつけたるものあり甚だしきは粘土、澱粉にて「コーヒー豆」の形に作り巧に色を着け眞正の「コーヒー豆」の內へ混合したるものなり、又粉末の「コーヒー」は多くは一度用ひたるものを乾かしたるもの其香味宜しからず故に「コーヒー」を贖ふには培りたる「コーヒー豆」を求め之を粉末となして用ゆるを宜しとす、

●烟草

烟草も又「コヒー」の如く神經を興奮するの力あり

故に長時間勤務をなし又は精神の感動たとへは不幸不滿失望等の爲め心身平ならざるとき烟草を喫するときは精神頓に爽快となり種々の苦痛を忘れ得るものあり之れ烟草の内には「ニコチン」及び其他色々の毒物を含むものなるが故に適度を超ゆるときは却て大害をなすものなり即ち食慾欠亡「喉頭カタル」胃病、眩暈、心悸亢進、手足の顫震の如きことをなし又眼の視力之が爲に衰ふることあり之れ日常烟草を用ゆるときは遂には之に慣れ斯くの如きことをなすことまれなり日本流に深く吸ひ込むときは其害少なからず以上云へるが如く烟草は多少効力あるも其障害も又た多きものなれば生活上に必要なるものにあらざるなり

●人身の構造及官能（前號の續）

骨は人身の形を成す基礎にして堅きものなれど脆くして折れ易きものなり

（頭骨）は二十四個の骨よりなり内に腦と名づくる貴重なる物を包み藏むるものなり

（脊柱）は軀幹の支柱をなすものにて二十四個の厚さ一寸より五分迄の丸き板の重なりたるものにて軀幹の屈曲を許すものなり又此二十四個の骨中には上より下へ貫通する孔あり此孔は上は頭骨内の腦髓のある處へ達するものにて此孔中には腦のつゞきなる脊髓と稱するもあり又二十四個の各々の骨と骨との間に透間あり此間より脊髓の神經となれるもの出でて筋肉及び皮膚に達するものとす

（胸廓）は前に云へる脊柱と云へる骨の柱の兩側へ曲りたる肋骨と稱する十二對の骨附着して出來たる籠の如きものなり此胸廓の内には心臟、肺臟、肝臟、腸の如き種々の器械あり

（四肢）は數多の骨より組立てられ肩胛骨骨盤により胸廓の骨と連るものなり此四肢は種々の運動をなす爲に作られたるものなり

（靱帶）とは柔らかき紐の如きものにて骨と骨とを結び付けなるものなり

（筋肉）は軟き赤色のものにて伸び縮み自在のものなり一つ骨に其一端附着し他の端に附着するものなり故に筋肉收縮するときは二つの骨は相近づき伸長するときは相遠ざかるものなり之を以て身体の運動を營み得るなり筋肉の附着しならざる骨は故に動くを能はざるなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●●●神經系統　以上云へる所により身体の大凡の組立ては明らかなり、斯く組立てられたる身体の諸部は如何なる理により人の意思の如く運動するかと云ふに身体の内には神經と稱する電信の線の如き働きをなす線條なり此線は腦と筋肉及び皮膚との間に連續するものなり又腦の内には不可思議なる精神と云ふものあり故に今皮膚に何か觸れたるときは其感は直に神經により腦へ報知らるゝものにて又腦にて右手を動かさんと欲するときは之を神經にて右手にある筋肉に傳へ相當の筋肉收縮して右手を動すなり。又胃腸等より別に腦へ連續する交換神經と云ふものありて胃腸の内の事を腦に通知するの用をなす、たとへば空腹を感ずるが如きは之此神經の力によるものなり

●●●血行器　身体を養ふ必要なるものは種々あり空氣食物、にして此空氣、及び食物より得たる滋養物を身体の諸部へ分布するもの血行なり即ち血液は種々の滋養物を含むものにて此血の通行する處は骨、筋の別なく血中より己れの好む營養品を採り不用の物を血中へ返すものなり之を以て血液は不斷循環流通せざるべからず、之を血行と云ふなり、血液は心臟、血管の内にあり心臟は一種のポンプにして血液を身体の諸部へ送るものなり斯くの如く身体の諸々の節分に達したる血液は前に云へるが如く滋養物を筋肉、骨又は腦等に與へ其不用なる性分を受けとり心臟へ返り來るものなり此歸途にて肺臟を通り此所にて血中の不用なる性分を出し新らしく空氣中より營養物を受くるものなり、又腸胃に行きたる血液は腸胃を養ふ物を出し歸途に食物の消化したる滋養のものを吸ひ込みて

返り來るあり、肺を通りたる血と腸胃より滋養品を持ち來る血液は心臓内にて混合し又再び心臓の作用により身体の諸部へ送り出たなるゝものなり、又腎臓へ送られたる血液は此器械の働きにより其内に含む不用ある性分を取らるゝものあり此不用なる性分は即尿となり体外へ出ずるものなり、

●呼吸器及消化器

呼吸器とは肺臓にして胞廓の内にありて右は三個左は二個に分たる、肺は海綿を嚢中に入れたる如きものにて又自在に伸収し得るものにて伸長したるときは外氣を吸ひ込み取縮したるときは肺中の空氣を呼出するものなり肺中に入りたる新らしき空氣は肺中に流通する血液に觸れ炭酸の如き不用物を血中よりとり酸素と名づくる滋養物を血液に與ふるものなり、

消化器とは口、食道、胃、肝臓、脺臓、腸等を云ふ口中に入りたる食物は先づ歯牙により細密に咬み碎かれ、唾液にて軟き塊となり嚥下作用により食道を通り胃に達す胃は一つの嚢にして其壁には數多の胃液を作り出す腺あり故に食物此處に達するときは胃液の分泌初り又胃は色々の運動をあし胃液と食物とを混合す、食物は胃液により消化して全く液体となり腸内へ流入す腸は長き管にして其終りを肛門と云ふ、又腸内へ食物入り來るときは肝脺の二つの器械より消化に要用ある液出で來りて食物と混ず故に一度胃にて消化したる食物は又腸内にて増々消化し腸の壁へ吸ひ込まれて血液の中へ達するものあり以上は種々の消化に必用なる液に逢ふも遂に充分消化せずして腸の壁へ吸

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

收せられざる物は大便となり体外へ出で去るなり

◉勞佚の適度

凡そ人は常にきまッて勞働する樣にしなければなりません是れは誠に必要の事と思ひます．既に私は何時ぞや此事の御話しをした事と思ひます、骨をおッて置かないと樂は無い、苦まなければ樂みが無い、元々苦みと云ふ事がなければ人が困るであらうと思ふ、勞働て置いて又遊ぶと云ふ樣に致さなければならん、夫れが今日の所殊に御婦人などは何うも爲さる事がヅット引續いて居りまして是れ丈けの事を仕上げて休もうと云ふ樣な規定が付て居らない、左程酷い骨折りでも無く年が年中ダラ〳〵となされて居ると云ふ氣味合が御座います、男子の方にも幾分か夫れは有りますが、學校にでる者とか役人とか云ふ者には日曜と云ふ者が有ッて、一週の間骨をおッても日曜に骨休をすると云ふ事に爲つて居る、若しも日曜がなかつたならは何う仕樣と思ふ位です、今日では誠に日曜を樂んで日々の仕事をして居ります、ソコデ私の考へまするに、今の御子供衆は學校で日曜の味を占めて居りますから追々にさうならうと思ひますが出來る事なら今日から致したい、必しも日曜と定める譯でも無いが、一月中の日を定めて是れ丈けの事を仕樣、是れ丈の事をすれば此日は遊ぶと云ふ事を規定し、御自分許りで無く御召使ひの者迄もソウなされたならば、却てダラ〳〵と働らゐて居らるゝよりも仕事も進みませうし身体も御丈夫にならうと思ひます、

◉起臥の時を定める事

之に就ては御婦人方に向ては斯うありたしと思ふ

事も無い、誠に今日迄も能遣つて居られます、外國などでは左程には參つて居らない、私共外國から歸つた當座には夜の時間が短くて困りました、十時に歸へらぬと遲いと謂つて叱言を云はれる、據ろ無しに十時迄に歸ると云ふ樣になつた、是れ全く御婦人の高庇です、若し男許りなら平氣で夜明しをも致すであらうと思ひます、歐羅巴では隨分婦人が先き立ちて夜明しを致し、殊に冬向き宴會などの時になれば夜の三時四時明かるみかゝつてから歸宅し、夫れから寢るから丁度夜を晝に換て居るやうな者です、就中上等社會に多くどうか九時から夜會など云ふ事は成丈け御廢しに致しどう存じます、其の身躰に好く無ゐ事は申す迄も無い事です、大抵人の寢なければならぬのは七時間から八時間で御座いませう、夏冬で少しは伸び縮は御座いますか、我國の一般は大抵是に適して居りまして、別に述ます程の事も御座いませんが唯成るべく此事をば嚴密に致されたいと思ひます

賓客に對する菓子

是れも氣を附けなければならぬと申すは、御客樣は全躰滅多に召し上がる者では無い、所で御客樣が御愛想に「能い御子さんで一ッ召し上がれ」など言はれると、家內で時を定めて居つても御客樣の爲めに折角の定規を過まられる、定た事が行なはれぬと云ふ樣になります故に成らう事なら御茶位ゐは仕方が無いとして御菓子は廢する樣にして如何の者かと考へて、實際一二の友達共相談致し我々は特別の請求がなければ御茶菓子は出さぬと云ふ事に致しましたが、誠に氣樂で宜しう御座います、御菓子ですら其通りですからマア一獻

上などゝ云ふ事は實に能く無い、既に自身に酒が人間を不規則にすると云ふ事を存じて居るから容易に盃の事は言はないが宜しい、食事の時なれば只今食事で御座いますから鳥渡御免を蒙むると云ふ位るにして居れば先の人が格別の用事でなければ歸りますし、又其人に膳を出すにしても平常自身の家で食べると同樣の者を侑めると云ふ位なら宜しいが、不時に食物を侑め別に馳走するやうな事は致さない樣に致したい者です。

◎身躰の清潔

是れは度々くどく申す處ですか身躰を奇麗にする事は衛生の本と云ふても宜しい、一人一家のみならず、公衆衛生など申して、一村一市又は一國をして、無病長命の地といたす企も、一身の清潔が基ひであります、己れの身躰が湯にでも這入つて奇麗になると誰しも汚ない着物は着たくなくなる、既に奇麗な着物を着れば、見苦しき物が其の邊に散らかつて居つては、心持が惡るいから自然に奇麗に仕やうと思ふ、家の中が奇麗になると家の周ぐり、夫から己れの住まつて居る町と云ふ樣に、次第に望が大きくなつて、日本中を奇麗に仕たいと云ふ事になる、衛生の基礎と申したは即ち爰の事です、又寢衣の時と晴れ着の時とは心の持方が自づと違ふ者にて、上下を着けて横臥をする人はありません、身躰にキマリがつくと、なす事にキマリがつき仕事も自づから捗取ります、私は或處で、衛生と云ひ、經濟と云ひ、總て人間の福祉はキレイ清潔キマリ秩序の二語にあると申ました

◎心意を爽快にする事

是れも誠に必要で有ります、心の快く爽かと申す事は如何なる時に在ると云ふ事を考へて見れば

解ります、一日中の事で申せば自分の業を濟して御湯にでも這入ツて、夫から先づ一ト休みする時は一番心持が宜しい、一年で申せば大晦日に總ての仕事をしまツて、一夜明れば元日で其元日の參ツた時こそ第一に心持が宜しいて御座いませう、彼の通りに仕なければならない、心持の宜しいのは藥にある事で御座いますから是非ソウ致さなければなりません、併し此事を委しく申せば餘程六ケ敷事でありますからこれは後廻として心配と嫉妬と競爭を餘り致さない樣にすれば先づは爽快になりませう、勿論心配と云ふ事は生て居る内は仕なければならないが、詰り足る事を知るといふ樣になれば宜しい、知足と云ふ事は孔子の敎で中々六ケ敷い事でありますケレドモ無くても宜しいと云ふ譯ではない、御聞きなすッた事も有りませうが、希臘のジヲゲネスと云ふ人は悟りを開てしまツて、始めは田地も家も入らないと云ふて人に遣ツて仕まい、着物も道具も遣ツて仕まツて、遂には桶の中に這入ツて暮して居ッた、腹の減る時分になると、人が可憐相だと云ふて食物を持て來て呉れる、夫れで安心して居ッたと云ふ面白い人です、或時「アレキサンドル」大王が參ツて何か望はないかと尋ねられましたから「唯一ツ有ります」夫れは何かと云ふと「アナタも少し傍の方に依て下さい左も無いと日が當らないから」と云ふたそうだが、是れは餘り足る事を知り過た話しです、足ることを知るは先づ自身に相應と云ふことを考へねばなりません、世の中に貴賤貧富の差は色々ありて、歌に「上見れば及ばぬことの多かりき笠きてくらせ已のが心に」又これをもじりて『下みれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ば及はぬことの多かりき上見て通れ兩國の橋」とあるも、身分の不相當の望を戒めたのでありませう私の考へは少し差ひます、見るもよし望を起すもよし、只直にやつて見やうと思ふてはならぬ、何故に彼は然り吾は否らずと其理由を考へねばならぬ、其時までの經歷を考へ、吾は斯〳〵のとなして、是〳〵の報酬あり、斯くなさは斯くあらんと、倍す業務に出精する企てを起さば、上下を見る方却つて益あるとと存じます、濡れ手で粟のつかみ取り仕樣と思ふと心配が起るが、一生懸命仕事に懸ツて居ると、心配も不平もありません、貧士族とか壯士とか申して不平を鳴す人は、多くは定まりたる業務のない人であります、又嫉妬も其通りにて、よく考ふると大槪自分の方が惡るい者です、競爭も度を越ゆれば害があります、併しまるで止められては困る、エライ人間にならうとか金持にならうとか云ふ考へは無ければなりませぬ勤働の根は苦けれど實は甘しとか考へて居たらば當前の競爭は仕なければならんが左程迄に心配と云ふ事はいらない譯になります、從ッて心も快くなるでありませう、歌に「怠らず行かば千里の月もみん牛の歩のよし遲くとも」

大日本婦人衛生會記事

●二月例會　二月十一日第二土曜日午後一時より芝區愛宕町一丁目萬年山青松寺に於て例會を開く會するもの二百五十餘名にしてドクトル長與稱吉君には食事に就てと云る演題にて食物消化上の注意を促され第二席醫學士土肥慶藏君には皮膚病に就て先づ表皮眞皮脂肪層より延ひて皮膚の傳染病を說き一々繪圖に對照し尙最後に顯微鏡下に於て實物を示し演說せられたるが散會せしは四時頃ありき

嗚呼太田幾子逝く　氏は平素教育と衛生のことに意を用ゐること極めて深く身を處すること謹恪にして曾て怠慢の色なく本會の創立以來茲に十有餘年この會のために事務のことを擔任せられ日夜力をつくしその功績もいと多かりしが不幸にして肺患にかゝり去年九月の頃よりは病蓐に臥して亦起たず國手大醫の療養毫も怠らさりしか天命を貸さず本月に至りては病勢俄かに加はり本月十六日天大に雪ふるの日溘焉として遂に永眠に就かれぬ年四十有三谷中善光寺坂上妙情寺に葬る　嗚呼悲しき哉痛ましき哉君が病蓐にあるや躰力憔悴して氣息困迫頭痛岑々たるも談本會のことに及べは懇話切語殆んど病勢を忘るゝが如く來月の例會には出席すべし總會には快復すべしなどいと樂しめるが如くなりしも余は心竊かに病患の深くして快癒の望みなきを見て中心悲悼に堪へざりき君の長逝するや役員諸氏は君が多年の盡力を思ひ出で各々賻を厚うして懇ろに會葬せられたりき茲に掲げて會員諸氏に報じ併せて哀悼の意を表す

編輯員　田中生識

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

●婦人衛生會事務員太田幾子には多年本會の爲盡力せられたるが宿痾遂に癒えず長逝せられたるに依り本會よりは特に香花料金拾圓を靈前に供へたり

●事務員の後任及事務所移轉

事務員後任の件に就ては役員多數の推薦により

四谷區仲町三丁目二十三番地

小林榮子

右仝人に委囑し仝時に事務所も同所に移轉す今後の郵書は同所へ爲替四谷郵便局宛にて振込るへし

◉入會者

●二月中本會へ入會の諸氏左の如し

○安西やす子の照介により

北里病院内　三崎千代子

仝所　入澤みき子

○岡村しげ子の紹介により

北里病院内　水上のぶ子

仝所　久田あい子

○内山松榮子の紹介により

麴町有樂町二丁目三番地　通常會員　池上ひさ子

○安西やす子の紹介により

北里病院内　鈴木たか子

仝所　深澤はる子

○千谷茂登子の紹介により

新吉原角町二十番地通　通常會員　杉浦こう子

○川村もと子の紹介により

伊勢國津市病院内赤十字支部養成所　安岡やすゑ子

○津田たき子の紹介により

横須賀稻岡二十三號官舍　通常會員　山口靜子

○……事務所へ申込により

埼玉縣秩父郡名栗村大字上名栗五十八番地　通常會員　岡部小春子

〇芦澤さく子の紹介により
長野市日本赤十字社支部
看護婦養成所内　兒玉さく子
仝　所　松村ゆきゑ子
仝　所　礒田ぶん子

〇事務所へ申込により
香港横濱正金銀行支店内　通常會員　長尾せい子

〇藤井多嘉子の紹介により
牛込區拂方町二十五番地　通常會員　河合りう子
麴町區上六番町四十八番地　仝　佐々遊喜子
本所區君宮町七十六番地　仝　村山すゑ子

〇田中りう子の紹介により
神田橋内警視廳官舍　通常會員　小倉田鶴子
牛込區矢來町八番地　仝　鈴木よしゑ子
麴町區下二番町二十九番地　仝　近藤きく子

◎二月中移轉者

〇麴町紀尾伊町三番地五十七號へ　家永ねつ子
〇京橋築地海軍大學校官舍へ　水谷まち子
〇青山北町二丁目三十二番地へ　高山らく子
〇牛込區二十騎町六番地へ　林たけ子
〇向島寺島村元寺島二千七十六番地　鈴木ゐや方へ　竹内さみ子
〇本郷區湯島三組町八十二番地へ　松本かの子
〇芝區公園二十五號地へ　田中てる子
〇麻布區芝北新門前町三番地へ　松本梅子
〇麴町區裏霞ヶ關一丁目外務省構内官舍畑方へ　飯田夫人
〇麻布飯倉狸穴町十八番地へ　山崎富志子
〇北海道公立江差病院内へ　田中許子
〇本郷區西片十番地はノ十號へ　眞水てい子
〇芝區車町三十五番地へ　戰島峯子
〇本郷區新花町五十三番地へ　駿河翠子
〇本所區三笠町四番地へ　荒井多嘉子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則摘要

一凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

一會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

一本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中女生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

一男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

一本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

一毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

一會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむるを得

一講義演説の際男子の傍聽を禁すと雖も會員に縁故ある男子は此限にあらず

一會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

一會費は郵便小爲替にて東京神田佐久間町郵便取扱所へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日內務省許可

し尤も一割增とす

一入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふべし

一每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し

一至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得

一各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

一本會の集會場は時々報知する者とす

一會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれは受領證は送付せざるものとす

東京四谷區仲町三丁目廿三番地
私立 大日本婦人衛生會

齒科診察 午前八時ヨリ 午後三時マデ

東京日本橋區本町二丁目十二番地
齒科醫 高橋孝子
齒科醫 高橋虎一

廣告料		
一頁	金二圓	總て前金とし割引せず
半頁	金一圓	
一行	金六錢五厘	

明治三十二年二月廿七日印刷
明治三十二年二月廿七日發行

發行所 東京四谷區仲町三丁目廿三番地 大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎
印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造
印刷所 神田區旅籠町二丁目十一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可每月二十日發行
（定價金拾錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN